

◆荒井良明 選

《滑稽って何?》

辞書的には「おどけていて、面白いこと。おかしいこと。また、そのさま。(大辞林第三版)」です。

では、何が人を面白がらせ、おかしがらせるのでしょうか。具体例を見ていきたいと思います。

《地口 (だじゃれ)》

火蟻来て事情聴取すヒアリング 良明

これは地口 (だじゃれ) を使った滑稽俳句の例です。機知 (ウィット) も感じられます。地口ももう少し手がこんでくると、

新玉や見覚えのある猫に会ふ 八木健

というレベルになります。おわかりになりますか。

「あら? タマ! 」と、新年の季語「新玉 (あらたま)」のダブルミーニングです。これも地口の使用とともに機知あふれる作品だと思います。

《ユーモアとペーソス》

蝶ひらり猫の一撃かはしけり 良明

これはユーモアとペーソスの作品ですが、写生句です。この光景を見て思わず笑ってしまいました。猫は筆者に自分の失態を目撃され、恥ずかしそうな、照れくさそうな顔をしていました。猫に感情移入すれば、ペーソス (もの悲しさ、哀感) を感じたことでしょう。

ラーメンをすする一人の聖夜かな 馬場直子

これもユーモアとペーソスの作品。自虐ネタが一句になったのなら、ペーソス満載ですね。谷川史子氏のマンガ『おひとり様物語』(講談社コミックス)の「初めての彼氏に振られてどうしていいかわからない女子大生・未和ちゃん」のことを思ってしまいました。♪恋人もいないのに～♪というようなメロディーが読者の頭の中に流れたら、それは大成功。

それとも、かわいそうなお父さんの話？ 妻に先立たれ、子どもたちは家庭を持ってホーム・クリスマスとか、恋人とイブの夜を楽しく過ごしているのかなのに、ひとり家でインスタント・ラーメンをすすっているお父さん。読者の想像力をかき立てる作品はいい作品だと思います。

《擬人化》

冷蔵庫冷やす冷やすと武者震ひ 良明

冷蔵庫はときどき震えていますね。それを武者震いしているのだらうと、冷蔵庫を擬人化したわけです。この句が蛇笏賞受賞俳人で文化功労者の高橋睦郎氏の選を受けたときにはびっくりしました。蛇笏賞俳人・高橋氏は滑稽俳句も認めるのだと、同氏に対する尊敬をより深くしました。

《誇張》

海原をもちあげてゐる鯨かな 八木健

鯨がいかに大きく、いかに力持ちでも、海原を持ち上げることはあり得ません。浮き上がる鯨が海面を持ち上げているように見えた、ということです。誇張がきいている佳い作品だと思います。

《見立て》

白菜の尻を揃へて糶（せ）られをり 越前春生

白菜が並べられて糶られている様子を「尻を揃へて」と見立てた機知。景が浮かび、思わず頬がゆるむ作品です。ここで、超大先生の句から一つ。

ぜんまいののの字ばかりの寂光土 川端茅舎

蕨（ぜんまい）の形を「の」の字に見立てた句。人口に膾炙した句ですが、これを滑稽句の一つに 数えたら怒られるでしょうか。

《機知》

職務質問されるぞ案山子その格好 良明

案山子コンクールは各地で行われているようです。コンクールに出される案山子の中にはひどく奇抜な格好をして（させられて）いるものもいます。

そこから発想を飛ばして「職務質問される」としたところが機知です。

《「あるある」の句》

豊年や切手をのせて舌甘し 秋元不死男
返り花きらりと人を引きとどめ 皆吉爽雨
明治座の幟（のぼり）は赤し都鳥 内田ゆたか
子らに試験なき菊月のわれ愉し 能村登四郎

この句は定年まで三十数年間高校教師（英語）をしていた筆者には「あるある」の句になります。

《子どもの句》

以上色々見てまいりましたが、最後に子どもの俳句を取り上げてみたいと思います。

なつの海ゆかいななみのゆうびんや 山形こうすけ・小2
スカイツリー入道雲が立ち往生 芳賀あとれ・小6
そうめんがはしからとつとにげていく 直江孝人・小6
ふきのとう雪のふとんを着ています 井原美沙希・小6

いずれも巧みな擬人法で光っています。